

会 議 録

1 会議名

令和5年度 第1回上越市環境影響評価会議

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 上越地区産業廃棄物最終処分場整備事業に係る環境影響評価方法書について（公開）
- (2) その他（公開）

3 開催日時

令和5年10月4日（水）午後2時から午後3時まで

4 開催場所

柿崎コミュニティプラザ 3階会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者 氏名（敬称略）

委員：天野 和孝、山本 進一、竹内 紀夫、中村 雅彦、谷 友和、
黒野 弘靖、吉柳 岳志、柴田 敏行、山口 武志

新潟県環境保全事業団：眞保課長、西田専門員

上越環境科学センター：服部課長、花溪主任、古賀技師

新潟県資源循環推進課：小林参事、高橋係長、戸田主査

上越市：中澤環境部長

環境政策課（事務局）：石黒課長、渡邊副課長、北澤係長、
保科主任、南雲主任

生活環境課：田村課長、柄澤参事

柿崎区総合事務所：小林次長

8 発言の内容

(事務局)

ただ今から令和 5 年度第 1 回上越市環境影響評価会議を開催する。はじめに、環境部長の中澤がご挨拶申し上げます。

(中澤環境部長)

～挨拶～

(事務局)

今年度委員の改選により、上越市環境影響評価会議委員をお引き受けいただいた皆様に委嘱状を交付させていただく。

～委嘱状交付～

(事務局)

今年度委員にご就任いただいた委員の皆様から自己紹介を兼ねて一言ずつご挨拶をお願いしたい。

～委員自己紹介～

(事務局)

環境影響評価会議の事務局は環境部の環境政策課となっている。環境政策課長の石黒から一言ご挨拶させていただく。

～挨拶～

(事務局)

本日の出席状況について報告させていただく。委員 10 名のうち、9 名の出席である。

(事務局)

本日の資料についてご確認いただきたい。

～資料確認～

(事務局)

委員名簿は事前に送付しているが、本日欠席の下村委員の専門分野について、ご本人から確認いただいた結果、「水圏生態」から「分析化学（水質）」に修正させていただいたのでご承知おきいただきたい。

(事務局)

ご案内のとおり、新潟県及び新潟県環境保全事業団では、柿崎区竹鼻地区及び同区下中山地区において上越地区産業廃棄物最終処分場の整備を計画しており、新潟県環境影響評価条例に基づく環境影響評価手続きとして、8月10日に事業概要や環境影響評価の方法について記述した方法書の縦覧を開始し、9月25日までの間、意見書の提出を受け付けたところである。

今後、事業者において、受け付けた意見を取りまとめ、県に概要書を提出した後、県知事から市長への意見照会を受けて、2回目の環境影響評価会議を開催することとしており、その会議において、委員の皆様から方法書に対するご意見をいただきたいと考えている。

本日の会議では、今後の審議に当たり、事業者から方法書の内容について説明を受けることとしている。また、会議終了後、事業予定区域に移動し、現地見学を行う日程となっている。

なお、質問については、事前にご提出いただいた質問書に対する説明に留める。

議題

(1) 上越地区産業廃棄物最終処分場整備事業に係る環境影響評価方法書について

(新潟県環境保全事業団)

～資料1に基づき「1 事業計画の概要」について説明～

(上越環境科学センター)

～資料1に基づき「2 環境影響評価項目の選定」及び「3 調査、予測及び評価の手法」について説明～

(新潟県環境保全事業団)

事前にいただいた質問について回答させていただきます。

「大量の降水による災害時にダイオキシンなどを含む水が未処理のまま万蔵川に流出する危険性はないか。またその対策は。これに関係して、ハザードマップがあれば掲載してほしい」という質問について、資料1の6ページに処分場の概要を示している。私どもが整備する管理型の最終処分場も基本的には同じような構造になっている。この絵には示していないが、浸出水処理施設、水処理施設の前に、大雨に備えて、十分な容量を持った調整槽を設ける計画である。調整槽の容量について、直近の気象観測データの最大の年間・月間降水量を基にして、十分に貯留できる容量の確保を設計で考えていきたい。

万が一、過去の降水量を上回るような、想定を超えることもあろうかと思うが、その場合は、処分場の埋め立て地に一時的に相当な量の雨水を貯水することが可能となるので、ここが溢れるという可能性は非常に低いものだと考えている。

ハザードマップについては、現在万蔵川については整備されていないということをお知らせさせていただきます。

(新潟県環境保全事業団)

続いて、「温室効果ガスのメタンの発生について、今後具体的にどのような環境配慮対策を考えていくのか」という質問に回答させていただきます。

環境アセスメントを進めた結果を基に検討を深めていきたいと思っている。

埋め立て地の中の酸素の循環が悪いということになると、処分場の中が非常に嫌氣的な状態になり、メタンガスを発生するということが一般的に知られている。これを低減するために、ガス抜き管を設置し、空気を取り入れて、空気の巡りを良くするということが、対策としては考えられる。

今後設計の中で、効果的に満遍なく空気が巡るよう検討し、できるだけ温室効果の主な原因となるメタンガスの発生を抑制していくということが、基本的な対策と考えている。

(上越環境科学センター)

続いての質問、「フォトモンタージュを作成するに当たって、カメラの焦点距離は35mmフィルム相当で何mmのものをお考えでしょうか」とについて、人間の目の視野角に近いと言われている50mmレンズを使用する計画としている。

また、「景観の撮影時間帯は何時頃をお考えでしょうか」という質問について、対象事業実施区域の地形を考慮し、撮影地点から順光となる時間に撮影を行うよう考えている。具体的には、東側から対象事業実施区域を望む場合は午前中、西側から望む場合は午後ということで、時間体を考慮して撮影を行いたい。

(上越環境科学センター)

続いて、環境影響評価方法書（質問箇所抜粋（資料2））の中で「大潟観測所における気象の情報データで、3月の気温で200.8℃という記載があるが誤りか」という質問について、ご指摘いただいたとおり、20.8℃であるため準備書で修正したい。

「対象地域の南北に断層があるか」という質問について、表層地質図で対象事業実施区域の東側に直線が引かれているが、これは地質の『砂・泥・礫互層』

と『砂・泥（三角州堆積物）』の境界線がちょうどまっすぐ入っているので、断層ではない。

続いて、動植物の関係で「対象事業実施区域とその周辺という表現があったが、それがどの範囲を指すのか」という質問について、その周辺というのは、基本的に対象事業実施区域を中心とした2,3km程度の範囲を対象としている。大体5万分の1程度の図面で表される範囲としている。

ただ、文献によってはその範囲を限定して情報を抽出することが難しいような情報もあり、動物を扱った資料では、対象事業実施区域を含めより広いエリアの情報掲載をするものがある。場合によっては旧柿崎町・上越市だけではなく、その他のエリアを含むような情報が記載されるというようなことがある。そういったことで、特に植物だけ旧柿崎町に限定したということではない。今回の資料調査は旧柿崎町を中心としたが、対象事業実施区域が柏崎市との境界付近に当たるため、事務所では、柏崎市の資料についても再調査をして記載したいと考えている。

また、「対象地域に隣接する頸北の池沼湖沼群自然環境保全地域が入っていない」というご指摘について、5万分の1の図面の方に、頸北の池沼湖沼群が入らないため記載していないという状況になっている。

(2) その他

(事務局)

今回の環境影響評価会議について、先程お伝えしたとおり、県知事から市長への意見照会を受けた後に開催を予定している。現在のところ具体的な時期は未定だが、今後、第2回及び第3回の開催を予定している。

会議の開催については、事前に皆様から確認させていただいた日程の都合も踏まえ、別途ご案内させていただく。

(事務局)

以上で令和5年度第1回上越市環境影響評価会議を終了する。

9 問い合わせ先

環境部環境政策課環境政策係 TEL：025-520-5689

E-mail：kankyo@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。